



——自分が想像していた酪農との違いはありましたか。

ひとみ そうですね。大変さはもちろんありますけれど、今はただ楽しみながら作業をしている感じなんです。まだまだ分からないことや分かっていないことがたくさんあると思っています。

晃輔 これまで生き物を相手に仕事をすることがなかったのも、もともと酪農のイメージもそんなにできていなかったのですが、それでもやはり生き物を扱うのは大変

だという実感はあります。思い通りにいかないことばかりです（笑）

——今は研修中ということですが、将来、酪農家になったら何かチャレンジしたいことはありますか。

晃輔 将来的には規模を拡大し、生産性の向上を目指して搾乳ロボットなどの機械化に挑戦したいと思っています。また、白糠町に新規就農者を呼び込めるよう、役場や農協（釧路丹頂農業協同組合）と連携していきたいです。

——町では、新たな人材を確保するため「新規就農者等支援事業」により新規就農者へさまざまな支援を行っています。こうした支援制度についてどのように考えていますか。

晃輔 こうした支援制度がなければ、酪農も含めて新たに農業へ挑戦するということが、なかなか難しいのではないかと思います。

ひとみ 私たちもこうした支援制度があるおかげで、酪農に踏み込むことができました。

晃輔 私たちの一番の望みは、白



菊地晃輔さんとひとみさん夫婦
ともに白糠町生まれ。高校2年と中学3年、小学5年の男の子3人との5人家族。今年の9月に新規就農の予定で、現在は農家で研修中。晃輔さんの趣味は映画や音楽鑑賞、スポーツ観戦。ひとみさんの趣味はお菓子作りと音楽鑑賞

糠で酪農をやることです。それが一番だったので、その夢を後押ししてくれる制度は本当にありがたいと思っています。

——将来「酪農」での新規就農者となれば、白糠町では第一号認定となります。また、釧路丹頂農業協同組合の設立（平成18年設立）後、初の酪農就農者となりますが、どんな酪農家になりたいですか。

晃輔 農協や町の担当者の支援や協力により、ここまでやってることができました。また、研修先

の農家さんたちが本当に協力的で、温かく私たちを迎え入れてくれました。そういう人たちの期待に応えるためにも、一人前の酪農家になって、明るく楽しい牧場にしていきたいです。

ひとみ 白糠は子育て支援が手厚く、教育にも力を入れていますので、本当に魅力的な町だと思います。この町の発展のためにも、一次産業である「酪農」で将来仕事ができればと思っています。そのためにも、二人で協力しながら、今の研修を精いっぱい務めたいと思います。